

平成19年度研修生募集スタート

ハイライト:

- ・記念講演 「ある日本人ペルー移住者の生きざま」
- ・帰国報告会 総会に併せて帰国報告会が開催されます!

目次:

八重尾直忠記念講演	2
機関紙だより	3
イベント情報	4
帰国報告会案内	別

■その他の経費

- ・講習参加費
 - 第一次講習 7万5千円
 - 第二次講習 3万3千円
(アメリカ・コンビのみ)
 - 出発前講習 1万7千円
(米国) 3万9千円
(欧州)
- ・分担金 25万円

いよいよ今年も研修生募集の時期がやってきました。皆様のまわりで「この青年なら」という若者がいたら是非農業研修に誘ってください。また職場や近所でポスター、パンフレットの掲示をしていただけるような場所がありましたら事務局までご連絡下さい。研修生の募集期間は8月30日までです。(アメリカ・コンビネーションコースは11月10日まで) 会員の皆様のご協力をお願いいたします。



アメリカ・コンビネーション(約18ヶ月) 31万円
対象者: 昭和53年7月1日～平成元年4月1日生まれ 70人

アメリカ・プラクティカル(約12ヶ月) 46万円
対象者: 昭和53年4月2日～昭和62年4月1日生まれ 10人

デンマーク・プラクティカル(約13ヶ月) 80万円
対象者: 昭和53年4月2日～昭和63年4月1日生まれ 5人

ドイツ・プラクティカル(約13ヶ月) 76万円
対象者: 昭和52年4月2日～昭和63年4月1日生まれ 7人

スイス・プラクティカル(約13ヶ月) 45万円
対象者: 昭和52年4月2日～昭和63年4月1日生まれ 15人

オランダ・プラクティカル(約13ヶ月) 81万円
対象者: 昭和56年4月2日～昭和63年4月1日生まれ 18人



派米研修中に会った一人の日本人
その後の人生を大きく変えた

八重尾 直忠（神奈川/S 3 3 /米 3）

平成 18 年度壮行会記念講演

「ある日本人ペルー移住者のいきざま」



熱心に聴き入る参加者



懇親会後の集合写真



6月25日に渡米するアメリカ・コンビ
ネーションコースの研修生



◆講演概要

南米移民は、一般的には明治41年（1908年）、笠戸丸に乗船した781人が同年6月18日ブラジル・サントス港に上陸しサンパウロ州内各地のコーヒー農園に配属されたのが最初とされている。

しかしそれ以前、奴隷解放のあおりを受けたペルーの大農場では人手不足に悩み、日本人労働者を受け入れるべく、日本の業者とはかり、明治32年（1899年）約790人の日本人がペルーへ移住した。

これらペルー移住者を待ち受けていたのは言語、風俗習慣の違いに加えて奴隷同様の過酷な労働条件であった。これに堪えきれず農場を脱耕し町に出た者、アマゾンを下ってブラジルへ逃れた者、ボリビアやアルゼンチンへ転住した者など四散の憂き目を見た。

今回の講演は、パナマ運河を越え中米を経てメキシコからアメリカへ潜入した日本人移住者の軌跡とその心の葛藤に迫った。

◆レポート

八重尾兄はアメリカ研修中に数奇な運命を背負った一人の日本人に出会う。彼はペルーに移住し仲間5人と一緒に徒歩でアメリカまで逃げ出してきた脱耕者であった。今でもジェット機で8時間以上かかるその距離を彼らは7年もの歳月をかけて自由と職をもとめてアメリカへやってきた。昭和34年、八重尾兄が出会ったその人はアメリカに入学してすでに40年以上がたっていた。

ペルー移民の悲惨な状況を目のあたりにした八重尾兄はすぐさま領事局に掛け合いグリーンカードすらなかった彼らのために奔走する。

このときの出会いが八重尾兄を帰国後、移住事業への道へ導くことになる。とは、人生における出会いの意義深さを感じないわけにはいかない講演であった。（村田正）

機関紙だより

北の大地から

日本青年海外派遣センター 2007年度「会報」第1版より



2003年、北海道に産声を上げた特定非営利活動法人「日本青年海外派遣センター」は、毎年20名前後の研修生を米国に派遣している。設立に深くかかわり派遣前研修も担当していた水橋剛兄（北海道/S39/米1）は本会賛助会員でもある。今回届いた会報に共感できる記事があったので紹介したい。独自の海外農業研修生派遣制度の今後を見守りたい。

◆はじめに・・・

本センターも早いもので2003年の設立から今年で4年目になります。今日の日本の「農業」の状況、また「教育」の状況を見ますと非常に大変な時期にきていると思いますし、大きな転換期に差しかかっているのではないかと思います。

「農業」では、担い手不足の問題・離農家の増加・外国人研修生に対しての不当労働の問題や賃金不払いの問題・輸入依存問題などまだまだクリアしていかなければならない事がたくさんあります。「教育」でも、学級崩壊やいじめの問題、少年犯罪の増加、教職員の不祥事、また、精神的な苦痛を理由としての教職員の休職が増加している問題などがあります。このような点から、本センターの最大目的であります「農業」を通しての「人材育成」は、これからの北海道、いや日本に欠かせないモノになってくるのではないかと思います。

2007年に入り、日本は「団塊世代の大量退職」の問題を抱えることになり、今後の展開として10代、20代の若者を企業は、多く採用していく事になります。企業としては、より良い人材の確保が急務であるが、少子高齢化の問題やフリーター、ニートの問題が現在、非常に深刻になっており厳しい現状にある。しかし、企業はそんな事を言える状況ではなく雇用人数を増やしていかなければならない。若者と呼ばれる10代、20代の人口が少なく、その中から良い人材を見つけ出すのは難しいだろう。こういう状況だからこそ、本センターの事業を更に浸透させ、且つ発展させなければならない。なぜなら、上記した問題を本センターの派遣プログラムを通して解決できるからである。

もう一度、この派遣プログラムの良さを考えてみたい。このプログラムの良さというのは、自分に「自信」がつく事である。何故そんな事が言えるのか？それは異国の地で、言葉や文化、習慣も考え方も違う外国人達と労働をする事は、幾つもの壁を越えていかなければならない。その壁を越えるためには「苦勞」や「悔しさ」「努力」を伴う。しかし、自分自身の持っている力を最大限に「出しきる」事ができれば、誰にでも簡単に越えられる壁であり、この壁を越えた瞬間「苦勞」や「努力」「悔しさ」が「自信」に変わり、また「経験」に変わり、一回りも二回りも成長できる。更に、家族の尊さ、友達の尊さについても、海外で自分自身を試していく中で、身をもって実感するだろう。本当に何て素晴らしいプログラムだろうか・・・。

ある人が、「人生はネタ作り」と言った。まさにその通りだと言える。経験は人生のネタであり、そのネタを多く持っている人が将来、大きく成長していくことだろう。このプログラムを通して先見性を養い、何事にも感謝の気持ちを持ち、人の痛みが分かる人間になる。そして、素晴らしい出会い、素晴らしい指導者に巡り会い、将来の目標を設定し、研修を終え帰国する。帰国した青年達は口々に「大変苦勞はしたけど、もの凄く良い経験になりました。一生忘れる事が出来ない思い出です」と必ず言う。どれだけ素晴らしいプログラムかこの言葉が物語っている。

そんな素敵な経験をされた方々へ・・・皆さんの周りにいる日本の将来を担う若者に、この「想い」を伝えて頂きたい・・・きっと、この「想い」は届くはずですよ。

所在地：北海道札幌市中央区宮の森1条12丁目3-11

TEL & FAX：011-611-9238

ホームページ：http://www8.plala.or.jp/jicia



イベント情報

都会人流 食と農のかかわり

東京 F I A 会長 本間 惇

2 年目を迎えた本間会長の東京農業大学公開講座「都会人流」、農の魅力をわかりやすく解説します。今回も 5 名分の席を確保しました。ぜひこの機会を逃さず参加して下さい。お申込は事務局までお願いいたします。

開講日	7 月 7 日 (土)
時 間	10 : 00 ~ 12 : 00、13 : 00 ~ 15 : 00
会 場	世田谷キャンパス 1 号館 2 階 2 1 0 教室
受講料	6 , 0 0 0 円 (5 名まで受講料支援)
申込締切	6 月 2 8 日 (木) 必着

カリキュラム

- ① 農を身近に知る
農の置かれている環境と消費動向を知り、生活に役立てましょう。
- ② 農の魅力発見
農は様々な力を持つ魅力的な産業で、21 世紀をリードする要です。
- ③ 農の不思議発見
農は生態学的にも確立されています。動植物の営みをわかりやすく解説。
- ④ 農を生活に生かす
農のパイオニアとして成功されている人の実談を聞き、チャレンジする方法などを伝授。

国際農業ジャーナリスト連盟世界大会

I F A J 日本大会事務局次長 村田 正 米 2 ・ 1 4 回生

今秋、欧米を中心とした世界の農業ジャーナリストおよそ 1 8 0 名が、日本を訪れ、日本の農業取材します。取材期間は 1 週間、東京では食肉市場、青果センターなどを取材するとともに東京農業大学で分科会形式の座学を行います。その後仙台を中心に東北地方の農家などを 1 泊 2 日で取材します。大会事務局では期間中、簡単な手伝いなどのボランティアを募集します。ご興味のある方は村田までご連絡ください。



IFAJ World Congress
JAPAN 2007

大会日程

9 月 1 7 日
ウェルカムパーティー
9 月 1 8 日
都内取材
I F A J 総会
海外参加者向け分科会
9 月 1 9 日
都内取材 古川市へ移動
古川農業試験場取材

9 月 2 0 日 ~ 2 1 日

東北取材
・丸森、米沢コース
・寒河江、鳴子コース
・登米、前沢コース

9 月 2 2 日

国際シンポジウム
フェアウェルパーティー

9 月 2 3 日

解散

平成19年度東京FIA総会のご案内

帰国報告会・歓迎懇親会

来る6月23日(土)、平成19年度総会および帰国報告会・歓迎懇親会を開催いたします。会場は、研修生なら懐かしい思い出の場所、「代々木オリンピックセンター」です。ヨーロッパ、米国での研修を無事修了し、遅くなって帰ってきた青年達の土産話を聞きながら、新しい仲間たちの歓迎の集いにしたいと思います。みなさまのご参加をお願いいたします。



オリンピックセンター



アクセスマップ

開催日: 6月23日(土)

開催時間: 13時30分

会場: オリンピックセンター
センター棟106号室

- □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
- 11:30 役員会 □
- 13:30 総会 □
- 15:00 帰国報告会 □
- 16:30 歓迎懇親会 □
- 18:00 閉会 □
- □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

<歓迎パーティー>
楽しい仲間と語ろう
本年帰国者 無料

問合せ先: 03(5703)0254 担当: 足達

国立オリンピック記念青少年総合センター
東京都渋谷区代々木神園町3-1 TEL: 03-3467-7201代)

- 小田急線 参宮橋駅下車 徒歩7分
- 地下鉄千代田線 代々木公園駅下車 徒歩10分

東京国際農業者協会

東京都大田区蒲田5-39-2-6F
(社)国際農業者交流協会内

電話 03(5703)0254
Fax 03(5703)0255
Email adachi@jaec.org

申込書

お名前

- | お申込 | 時間 | 参加料 |
|--------------------------------|-------|--------|
| ☐ 総会 | 13:30 | - |
| ☐ 帰国報告会 | 15:00 | - |
| ☐ 歓迎懇親会 | 16:30 | ¥3,000 |

ご住所

電話・FAX・Eメールでお申込下さい。
締切: 6月20日(水)
参加料は当日会場でお支払い下さい。

お電話番号

委任状

署名

私は6月23日開催の平成19年度総会において、
本間理事長を代理人に定め議決権を行使することを
委任いたします。

印

*総会に出席できない方は委任状に署名捺印の上、FAXしてください。

A male student with dark hair, wearing a plaid shirt and jeans, is standing in a classroom. He is pointing his right hand towards a large map or poster on the wall. The wall is covered with several maps and a green chalkboard with some writing. A desk is visible in the foreground on the right.

[illegible]

●16時30分より歓迎懇親会があります。
帰国報告者は参加費無料です。楽しい語
らいにぜひ参加してください。